

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	教育学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	丸山 恒	背景	私立中高一貫校教員歴40年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要 「教育」に関する基本的な概念やことがらを検討し、さらに今日の「教育問題」を考察し話し合っていくなかで、それらの背後にある社会・政治のあり方や哲学にも触れていければと思います。反論されること、突っ込まれることは、自分の人間性が否定されることではなく、頭のトレーニングです。					
狙いと到達目標 これまで当たり前・常識だと思っていたことを異なる角度から見てみたり、疑ってもみなかったことについて考えたり、話し合ってみる。そのような作業を繰り返すことによって、多面的に物事を捉えたり自分の思いや考えを説明・表現できるようになる。「思考力が深まった！」そう自己評価できるようになることを目指したいと思います。					
授業において実務経験をどのように生かすか 学生時代以来「現場主義」と「好奇心」で生きてきました。国内外で経験したさまざまな物事や出会った人々、それらが長い教員歴や授業そして人生を背後で支えてくれました。授業の外に脱線する、それも大切な「授業」だと考えています。					
授業計画・内容					
1	はじめに				
2	教育とは？①				
3	教育とは？②				
4	なぜ学ぶのか？ ——学びの意味・役割——				
5	学校 ——近代の学校、「学校化社会」——				
6	学校・教育「問題」①				
7	学校・教育「問題」②				
8	学び＝学校？ ——さまざまな学び——				
9	発達・成長？ できる・できない				
10	AI時代の学校・教育				
評価方法	自己評価10% 授業中の発言の量および質10% 筆記試験(論述)80%				
自由記述 (メッセージ)	現在、意見や立場の異なる人々と粘り強く意思を通わせ合おうとせず、簡単に切り捨ててしまったり、表面だけ合わせて取り繕う傾向が強くなっていると感じます。そのようななか、「学びは頭の柔軟体操」をモットーに、教育に関して根源的に考えていくなかで、硬直的でない、懐を深くする学びができればと思っています。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	統計学	必修	3年前期	10コマ・20時間	
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール+実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	はじめての統計学 出版社: 日本経済新聞社				
授業概要 統計学における基礎的な考え方、基本的な専門用語や概念の定義を学習する。					
狙いと到達目標 医療従事者に求められている、統計学の基礎知識と分析概念に関する基礎能力を習得し、関連文献等に含まれる統計情報の理解度を向上する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・統計学とは？	統計学の考え方の基礎・分析概念の説明			
2	統計学の概念の基礎	標本抽出・データの作り方の説明			
3	標本分布の特性値(1)	いろいろな形の分布・分布の特性値の説明			
4	標本分布の特性値(2)	分布の特性値の説明と応用の説明			
5	確率と確率分布(1)	確率・確率変数と確率分布の説明			
6	確率と確率分布(2)	二項分析・ポアソン分析の説明			
7	一様分布と正規分布	一様分布と正規分布の説明			
8	標本平均の分布と母平均の推定(1)	統計的優位性・標本平均の分析の説明			
9	標本平均の分布と母平均の推定(2)	母平均の推定の説明			
10	テスト	評価			
評価方法	出席・試験・課題				
自由記述 (メッセージ)	統計学は、難解な勉強と恐れている人が多いと思います。しかし、わかりやすい入門から始めれば恐れる必要はありません。私たちの生活に関連した統計情報を題材として、身につけていきましょう。短期間での講義ですが、集中しながら、楽しくいっしょに学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	死生学		必修	3年通年	10コマ・20時間
担当教員	渡辺俊彦 他	背景	牧師、児童養護施設施設長		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	なし				
授業概要 学科の最終学年にあたり、それまでの作業療法士への学びで身に付けた様々な知識技術の蓄積に加えていのちの諸相を学ぶことで深みのある医療人になれる。この授業では担当講師による死生学の体系だった学びに加えてゲスト講師を入れる事で多くの側面から死生学を捉えて行く事とする。					
狙いと到達目標 人にとっての「生と死」の意味を死生学の観点からとらえるとともに、現代社会における「いのち」のあり方を多角的に考える。また、自らの死生観をつくとともに、医療・福祉での仕事に携わるうえで役立つ知識とマインドを習得する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 牧師として、また児童養護施設の施設長としてそれらの実務を通して培った人間観、人生観を授業に生かす。また死を前にした本人、家族などの悲嘆に関わりながら身に付けてきた死生感も若い学生たちに理解できるように授業に生かして行く。更に専門学校講師として長く教育に携わってきた経験も授業の組み立てなどの点で生かす。					
授業計画・内容					
1	初回オリ、カルトなど	渡辺俊彦			
2	死生学総論	渡辺俊彦			
3	医療人間学の視点から(1)	和田 眞	大学名誉教授 理学博士 死生学研究者		
4	医療人間学の視点から(2)	和田 眞	大学名誉教授 理学博士 死生学研究者		
5	死生学総論	渡辺俊彦			
6	死生学総論	渡辺俊彦			
7	ガン哲学外来メディカルカフェで プロの患者になりました	渡辺三修			
8	生きるっていいもんだ！	白井隆之	出版社代表		
9	看護師が見つめる死と生(1)	白土智子	看護師		
10	看護師が見つめる死と生(2)	白土智子	看護師		
評価方法	課題提出、授業への参加度を総合的に判断する				
自由記述 (メッセージ)	この授業を通じて自分なりの死生感を育み、作業療法士としての仕事に携わる専門職としての人間的な幅を広げて欲しい。講師の提供する資料や参考図書に積極的に触れて欲しい。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	心理学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	田中 智子	背景	保健センター等の心理職経験 専門学校講師25年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社「心理学」と随時資料配布				
<p>授業概要 心理学のさまざまな分野から、人間の理解に役立つと思われるテーマを取り上げ、基礎的な知識を学ぶとともに、自分自身や臨床で出会う可能性のある人の行動や心の背景を考える機会を作る。</p>					
<p>狙いと到達目標 認知過程、学習の理論、心の構造などの基礎的な知識を理解し、必要に応じて想起できるようになる。認知や行動の一般的な傾向と一般的でない働きがさまざまな場面で生じることを知り、人について考え、今後臨床の場面で出会う方々の状態を考えるヒントにできる。 共通性、固有性、複雑さ、単純さ、強さ、弱さなど、人のさまざまな側面を感じてほしい。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 心理学の基礎的な知識とともに、それらに関連していると考えられる疾患や障がいなどについて、病院、障がい児施設、保健センター等での業務でお会いした方や経験したことなども含めて伝えることで生かしたい。</p>					
授業計画・内容					
1	心理学の歴史 科学としての心理学のはじまりとその後の展開				
2	認知心理学(感覚、知覚、認知)人が外界の情報をどのように処理し体験するかについて				
3	認知心理学(記憶) 記憶の過程、記憶の種類、記憶にある傾向について				
4	学習心理学(本能と学習) 学習とは何かについて、また本能など無学習行動について				
5	学習心理学 条件づけ学習とその応用、観察学習、洞察学習、マズローについて				
6	学習心理学 条件づけ学習とその応用、観察学習、洞察学習、マズローについて				
7	意識と無意識 フロイトの考えた心のしくみ、適応と適応機制について				
8	人格心理学 人格(性格)の理論、人格の形成、人格の変化と代表的な人格検査について				
9	コミュニケーション 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて				
10	社会心理学(集団と個人) 集団の中での個人の行動について				
評価方法	提出課題 10% 筆記試験 90%				
自由記述 (メッセージ)	教科書や資料にあることを、自分なら、または自分の身近に起きたことなら、など近くに置き換えて考える、積極的に感じるということで参加してほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	社会学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	佐々木和裕	背景	専門学校を中心に教育歴32年		
授業形態	座学中心	実務家教員 である			
受講ルール	まわりに、迷惑をかけない。ノートを取ること。				
受講条件	社会について常に問題意識を持つことができる人(やる気のある人)				
教科書等	自分を知るための社会学入門 岩本茂樹著 中央公論新書				
授業概要 社会を考えるための必要不可欠な社会学の基礎概念を理解する。現代社会を理解、考えていく。社会の中にある、不思議な事、変わっていると思うことを考える力をつけていく。					
狙いと到達目標 受講生が、社会学とは何かという意識を持ち、社会学の基礎的知識を身につけること、そのことによって私たちの生きる社会について分析し、考察できる基礎力を養う。将来医療人として、コミュニケーションの取れる、人の話を聞ける人になって欲しい。					
授業において実務経験をどのように生かすか 専門学校を中心に、教育歴30年、成年後見人として、10数年経験したことが、社会の変化を考え、人間の一生を考えることができる。社会学における、ライフコース、ライフサイクル、ライフステージについてより深く考えることができる。					
授業計画・内容					
1	社会学について	授業概要・日程について説明 メタメッセージ			
2	社会学のあゆみ 1	社会学の歴史 行為の意味解釈について			
3	社会学のあゆみ 2	鏡に映る自己・重要な他者/一般化された他者			
4	行為と行動				
5	集団と組織	組織とコミュニケーション 社会集団について			
6	地域社会	地域とコミュニティ 自然村と行政村			
7	社会的地位、役割	役割期待、社会化、印象操作、役割距離			
8	社会階層について	社会階層、社会階級、職業威信、格差社会			
9	ジェンダー	家族の基本概念、親密な存在ゆえの難しさ(愛情と憎悪)			
10	家族と社会				
評価方法	筆記試験 100%				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	情報科学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	改訂3版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト 著者名:財団法人専修学校教育振興会 監修 出版社:日本能率協会マネジメントセンター				
<p>授業概要</p> <p>情報の基礎知識からパソコンの操作・利用と役割・機能、情報モラルなどに関わる基礎知識を学ぶ。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>医療従事者に求められている情報科学の基礎知識、ならびにICTの基礎的な活用能力を習得する。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。</p>					
授業計画・内容					
1	情報表現と処理手順1	情報とデータ	情報の表現		
2	情報表現と処理手順2	問題解決の方法			
3	パソコンの基礎1	パソコンの基本構成 ハード・ソフトウェア			
4	パソコンの基礎2	OS 入出力装置 記憶装置			
5	インターネットの基礎	インターネットの基礎知識			
6	インターネットの利用	メールソフトとWWW			
7	情報機器の基本操作	ワープロ 表計算 データベース その他			
8	情報社会とコンピュータ	社会とコンピュータシステム 進展と課題			
9	情報モラル	情報モラルとネチケツト 関連法規			
10	まとめ・試験	理解度チェック・評価			
評価方法	出席・試験・課題				
自由記述 (メッセージ)	毎日の生活でなにげなく扱っている、コンピューターなどの電子機器とたくさんの情報。それらの理解の内容や使い方で、学習や生活に、もっと有意義な活用ができます。また、その逆も然りです。授業を通じて、それらの正しい理解を、一緒に、楽しく、学習していきましょう。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間関係学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	渡辺俊彦	背景	牧師33年 教員歴39年 児童養護施設園長		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
<p>授業概要 人間が生涯、関係を持たなければならないのは自分自身である。そのため自分自身との関係性を成育歴を振り返りながらアセスメントする。そして、自己理解を深め自分自身に対する気づきが起こるような内容とする。</p>					
<p>狙いと到達目標 成育歴で何を学び学習してきたのか。そして、自分との関係性の中で何を修正することが自分にとって適切なのかを具体的に示す。そして、不適切なところを修正し適切な出し方や関わり方ができるようになることを目指す。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 自己理解を深めることは他者理解へと繋がり良い関係性を構築することを可能にする。そのため、日常の人間関係のみならず、実習や専門職として仕事をするときクライアントと健全な関係性を構築するために生かす。</p>					
授業計画・内容					
1	コミュニケーションとは何か				
2	自己概念について(Ⅰ)				
3	自己概念について(Ⅱ)				
4	自己開示と人間関係				
5	怒りについて				
6	健全な自己肯定感について				
7	自己分析(テスト)				
8	バウンダリーについて				
9	バウンダリーについて				
10	まとめ				
評価方法	授業態度 20% レポート 80%				
自由記述 (メッセージ)	対人援助職になるということは自分を知ることからスタートです。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	医学英語		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
参考書等	リハビリテーションの基礎英語 改訂第3版(メジカルビュー社) 参考書:筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト辞典(ナツメ社)				
<p>授業概要</p> <p>身体構造、部位、筋・神経、疾患、略語等を表す医学英語を学び、覚える。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>作業療法士が働く医療現場で日常的に用いられる、『医療用語』『リハビリテーション用語』『略語』等を英語で理解し、これからの勉強や実習での理解がスムーズに進むようにする。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>今学んでいる言葉が実際の現場でどのように使われているのか、作業療法士としての現場での経験を生かしながら伝える。</p>					
授業計画・内容					
1	リハビリテーションとは・リハビリテーションのための人体の基礎知識①(断面と方向)				
2	リハビリテーションのための人体の基礎知識②(関節可動域・主要関節と部位)				
3	リハビリテーションのための人体の基礎知識③(関節可動域・主要関節と部位)				
4	人体の構造①(骨格系)				
5	人体の構造②(骨格系・筋肉系)				
6	人体の構造③(筋肉系)				
7	人体の構造④(筋肉系・神経系)				
8	人体の構造⑤(神経系)				
9	疾患とリハビリテーション①				
10	疾患とリハビリテーション②・略語				
評価方法	定期筆記試験				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	文献講読演習	必修	1年	前期	15コマ 30時間
担当教員	中村由美	背景	作業療法士経験年数 年		
受講ルール	共通ルール				
授業形態	講義・演習	実務家教員である			
受講条件	なし				
教科書等					
授業概要 専門学校においては様々な教科書や文献を読み、自主的に学ぶ姿勢が求められる。学年を追って、より専門的な内容の学びが増え、自分で考える機会も多くなっていく。本演習によって読み、書き、考え、表出し、また考える機会を作り、作業療法士の仕事をよりイメージ出来る一助としたい。					
狙いと到達目標 ・作業療法の多様性に触れ、自らがどのような職種に就くのかをイメージ出来る ・文献の構成や専門用語を理解できる ・日頃の勉強の仕方を振り返り、修正できる ・自らの学びについてプレゼンテーションができる					
授業において実務経験をどのように生かすか 					
授業計画・内容					
1	前期オリエンテーション(この科目の狙いとアウトカムについて確認していく)				
2	語彙の調べ方、発表の仕方について				
3	語彙を増やし、教科書や文献を読むにあたっての準備ができる。				
4	①テキストを読み、わからない表現を調べる				
5	②調べた内容についてシェアする				
6	③シェアしたことからテキストを読み理解する				
7					
8	後期オリエンテーション(この科目の狙いとアウトカムについて改めて確認していく)				
9	文献の構成や専門用語についての理解				
10					
11	文献の選択とまとめ				
12					
13	プレゼンテーション				
14					
15	全体の振り返り				
評価方法	小テストによる理解度チェック(50%) プレゼンテーション内容(50%)				

自由記述 (メッセージ)	これからの学習において、自分で考え、学んでいく姿勢を改めて確認していきたい科目でもある。作業療法を学ぶきっかけとしての位置づけでもあるので一緒に協力しながら学んでいきましょう。
-----------------	--

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	文献講読演習		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴		18年
受講ルール	共通ルール				
授業形態	講義・演習	実務家教員である			
受講条件	なし				
教科書等	知へのステップ 第5版 くらしお出版				
授業概要 専門学校においては様々な教科書や文献を読み、自主的に学ぶ姿勢が求められる。学年を追って、より専門的な内容の学びが増え、自分で考える機会も多くなっていく。本演習によって読み、書き、考え、表出し、また考える機会を作り、作業療法学生として求められる日本語力を身につけるきっかけとしたい。					
狙いと到達目標					
授業において実務経験をどのように生かすか これまでの実務経験では、グループワークを行う機会が少なからずあった。この経験から、授業では講義だけでなく、グループワークも適宜とりいれて、学生一人一人の深い学びとなるように努めていきたい。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション(この科目の狙いとアウトカムについて確認していく)				
2	レポートの基本、引用について				
3					
4	リーディングのスキル／語彙力を増やす				
5					
6					
7	文章の要約練習				
8					
9					
10	文章を読んで学びや気づきを表現する、疑問をもつことができる				
11					
12					
13	表現力をつける				
14					
15	全体の振り返り				
評価方法	提出物(30%) 定期試験(70%)				
自由記述 (メッセージ)	これからの学習において、自分で考え、学んでいく姿勢を改めて確認していきたい科目でもある。学習をすすめる上での基礎としての位置づけでもあるので、一緒に協力し合いながら学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科	
授業名,属性	コミュニケーション論 I	必修	1年通年	20コマ・40時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴	18年
受講ルール	共通ルール			
授業形態	講義・演習	実務家教員である		
受講条件	特になし			
教科書等	参考書:山口 PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院			
授業概要 そもそも「コミュニケーション」とは何かについて理解を深め、対人援助職として位置づけられる作業療法士が求められる能力について考える契機とする。				
狙いと到達目標 ・人として自分を成長させる素地を養うこと ・コミュニケーションとは何か理解し表現することができる ・コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる				
授業において実務経験をどのように生かすか 様々な職種や対象者・家族と接してきたが、特に治療・支援の対象となる患者さんとの良好な関係性を築くためには、適切なコミュニケーションが欠かせない。臨床での経験等を踏まえてコミュニケーションの大切さについて伝えていきたい。				
授業計画・内容				
1				
2	社会人のマナーとしてのコミュニケーション			
3				
4				
5	心身共に健康な医療従事者になるために			
6				
7				
8	実習でのマナーなどについて			
9				
10	前期レポート			
11				
12				
13	コミュニケーション力を育む			
14				
15				
16				
17	コミュニケーション応用			
18				
19				
20	後期レポート			
評価方法	レポートにて評価する			
自由記述 (メッセージ)	コミュニケーションを通して自分を知る、相手を知る機会とする。社会とつながる一手段として当たり前に使われている言葉であるが、セラピストとしてどのように使っていけばいいのか、2年生の専門科目の学びにつなげていきたい。			

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	コミュニケーション論Ⅱ	必修	2年通年	20コマ・40時間	
担当教員	山下 久美子	背景	作業療法士歴 17年		
授業形態	共通ルール	実務家教員 である			
受講ルール	講義・演習				
受講条件	特になし				
教科書等	等になし				
授業概要					
医療従事者、対人職は、チームワークが重要であり、円滑なコミュニケーションが必要不可欠である。作業療法士として必要なチームワーク、コミュニケーション、対人マナー、記録の書き方などのスキルを演習を通じて会得できるようにする。					
狙いと到達目標					
作業療法士として求められるチームワーク、コミュニケーション、対人マナー記録の書き方などのスキルを演習を通じて会得する。これらを臨床見学実習、臨床評価実習Ⅰ、Ⅱにて実行できることを目指す。					
<ul style="list-style-type: none"> ・自己について振り返り、目標を持って実習に臨むことができる ・学校行事に参加し、チームワークについて考え、行動できる ・医療従事者、対人職に求められるコミュニケーションスキル、対人マナーを考え、会得できる ・限られた時間内で情報を集約、整理でき、また、他者へ伝える事ができる 					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床で求められる、チームアプローチ、指導者に対する報告、チームの中での報告、カンファレンスの中での報告をイメージし段階付けをした発表形式としている。これら口頭での報告事項を文章として表現できることを目指し、臨床実習においても臨床場面に就職してからも活かせるスキルとしていく。					
授業計画・内容					
1	組織のコミュニケーション1 (クラス運営に向けての目標とルール作成、ビジョンの共有)				
2	自己を知る(社会人基礎力自己点検)				
3	協働・チームワークについて考える				
4	組織内のコミュニケーション2(チームでの合意形成と目標達成の経験)				
5	スポーツデイ 振り返り				
6	組織内のコミュニケーション3(チームでの合意形成と目標達成の経験)				
7	学園祭 振り返り				
8	社会人としてのマナー1(身だしなみ、姿勢、言葉使いなど)				
9	社会人としてのマナー2(電話、郵便、メールなど)				
10	インタビュー、面接について				
11	記録の書き方①(SOAP)				
12					
13	記録の書き方②(ICF)				
14					
15	記録の書き方③(レジュメ作成)				
16					
17	自分の特性を知り、他者へ伝える1(プレゼンテーション演習①)				
18					
19	自分の特性を知り、他者へ伝える2(プレゼンテーション演習②)				
20					
評価方法	各授業出席後、リフレクションシート提出にて評定します。				
自由記述 (メッセージ)	2年生後半には実習を控えています。この授業にて目指す行動目標は、対人援助職として期待される能力でもあります。それぞれ得意不得意はあるとは思いますが、練習によって獲得できるスキルでもあるため、集中して取り組み、会得していただきたいと思っております。				